

2020年8月28日

東京スクールオブミュージック&ダンス専門学校

イベント時における新型コロナウイルス感染拡大防止ガイドライン

東京スクールオブミュージック&ダンス専門学校は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止をしながらイベントの継続に取り組んでいます。今後も以下のガイドラインをもとに取り組みを継続していきます。身体的距離の確保など、十分な感染対策を講じたうえで段階的に実施方法を見直していきます。

【原則】

- 緊急性・必要性の高い授業・イベントを除き、外部の方に出演いただく形でのイベントは当面見合わせ、リモートでの出演を活用・運用する。
- 公開ライブイベント（外部からお客様を動員するイベント）については原則休止とする。（再開日程未定）
- 外出を伴う授業・イベントは、授業・イベントごとに必要性を慎重に検討する。外出を伴うイベント参加は必要最小限にとどめ、感染拡大対策が十分に講じられており、かつ必要性のある外部実習については学生・保護者双方の承諾書を持って参加とする。
- 学校内では、密閉・密集・密接の「3密」の状態を避ける取り組みをし、学生・講師・スタッフ間の距離に十分配慮する。

【環境・設備について】

- 校内イベントに関わる学生・講師ともマスクまたはフェイスシールドを着用して感染拡大防止に努める。出演者が本番において許可された場合にはその限りではないが、本番直前まではマスクまたはフェイスシールドの着用を義務化する。
- 本校 9F ライブスペースのステージ上の出演人数は7名までとする。

○無観客ライブで9Fライブスペースの客席を使用しない場合、客席エリアもパフォーマンスエリアとする場合がある。その場合客席の出演人数は15名までとする。

○マイク等の共有備品を複数人が使用する際、必ず毎回消毒を行い、個々のウインドスクリーンを使用した対応を行う。

○ライブスペースでは常時換気を行う。

○スタジオ、更衣室、控え室などの共有部分の消毒を毎日行う。

【イベント関係者の健康管理】

○本校は出演者およびスタッフの体温を毎日管理し、過去1週間以内に37.5度以上の熱、もしくは新型コロナウイルス感染症を疑わせる症状（発熱、咳、咽頭痛、息切れ、全身のだるさ、下痢、味覚・嗅覚異常など）があった場合にはイベントへの参加・出演を見送る。

○イベントに関わる関係者・出演者の名簿を作成し、名前、住所、連絡先、過去1週間の体温を管理する。

○イベント当日は、職員がイベント関係者・出演者全員の体温確認を行う。

○イベント最中に体調を崩した出演者およびスタッフは、イベントへの参加を即刻中止し、受診等の必要な対応を行う。

○イベントに関わった者のイベント終了後1週間の健康を管理する。

【「新しい生活様式」をふまえた共通の取り組み】

○職員、スタッフなどは出勤前に検温を徹底し、発熱や体調に異常がある場合は出勤しない。外部の出演者、イベント会場先などについても、体調不良の場合は直接の参加を見合わせる。また、以下の場合も同様とする。

- ・新型コロナウイルス感染症陽性とされた者の濃厚接触者とされた場合
- ・過去 14 日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航並びに当該在住者との濃厚接触がある場合

○出勤が不可欠ではない業務は在宅勤務を原則とするほか、時差通勤やオンライン会議を積極的に取り入れ、仮に感染者が出た場合でも、濃厚接触者を最小限にする持続安定的な業務体制づくりに取り組む。

○すべての業務の現場でマスクの着用や手洗い、手指の消毒を徹底し、「3密」を避ける対策を継続する。

○業務中にあたっては、その時点での感染状況と再開によって生じる感染リスクについて十分に考慮し、「新型コロナウイルス感染症対策の状況分析・提言(2020年5月4日)」の内容をふまえた業務ごとの対策を定めて遂行する。

○今後の授業・学校生活については、引き続き感染防止を最優先し十分な感染対策を講じることを前提に、地域（東京都や江戸川区）の感染状況などをふまえてその都度検討していく。

※このガイドラインで述べている「身体的距離」については、「新しい生活様式」をふまえ、できるだけ2mを目安に(最低1m)確保するよう努める。

以上